



台風たいふうの雲くもはなぜ黒くろっぽいの

台風たいふうの雲くもは非常ひじょうに厚あつい

台風たいふうの中心部ちゅうしんぶには、直径ちよっけい数十すうじゅうキロメートルにわたって風雨ふううが弱よわく、ときには、青空あおぞらが見えるところがあります。これを台風たいふうの目めといいます。台風たいふうの中心部ちゅうしんぶの気圧きあつは大変たいへん低ひくく、中心部ちゅうしんぶに向かって強い風つよが吹きこみます。

すると、中心部ちゅうしんぶの周辺しゅうへんで激しい上昇気流じょうしょうきりゅうが起き、厚い雲あつができて大雨おおあめを降ふらせます。この雲くもは積乱雲せきらんうん（かみなり雲くも）で、10～15キロメートルぐらいの厚さあつになっています。

雲くもが厚あついと黒くろっぽく見みえる

雲くもは、小さな水ちいや氷みずのつぶからできています。空気くうきのつぶよりも1万倍まんばいも大きおおく、太陽たいようの光ひかりにあたると、全体ぜんたいが反射はんしゃして白しろく見みえます。ところが、台風たいふうのときのように雲くもが厚あついと、太陽たいようの光ひかりが雲くもの底そこまでとどかないので、雲くもが黒くろっぽく見みえます。（監修・村山 貢司）

